

第 6 期 第 9 回 武蔵野市 図書館 運営 委員会 議事 要録

日 時 平成 27 年 9 月 7 日 (月) 17 時 30 分 開 会 18 時 35 分 閉 会

場 所 中央 図書館 3 階 視 聴 覚 ホール

出 席 者 委員 7 名

船 崎 委員 長、毛 利 副 委員 長、伊 野 委員、小 林 委員、田 丸 委員、花
村 委員、松 山 委員

事 務 局 8 名

養 田 館 長、奥 野 副 参 事、前 田 課 長 補 佐、盛 田 課 長 補 佐、秋 庭 係 長、
川 西 課 長 補 佐、森 本 課 長 補 佐、小 林 主 任

内 容 1 議 事

(1) 前 回 議 事 録 の 確 認 に つ い て

(2) 図 書 館 の 運 営 に つ い て

2 その他

【 司 会 】

1 . 開 会

定 刻 と な っ た の で 開 会 す る 。

【 図 書 館 長 】

現 在 市 議 会 定 例 会 が 開 会 中 で、一 般 質 問 で 図 書 館 に 関 す る 質 問 が あ っ た
の で 紹 介 す る。図 書 館 基 本 計 画 (以 下 計 画 と い う。) 策 定 か ら 5 年 が 経 過
し、運 営 委 員 会 で も 吉 祥 寺 図 書 館 の 在 り 方 等 に つ い て 協 議 し て い る。ま た、
教 育 委 員 会 で も 議 論 し、8 月 の 文 教 委 員 会 で 行 政 報 告 を 行 っ て い る。計 画
に も 見 直 し 規 定 が 入 っ て い る の で、見 直 し を 行 っ て は ど う か と の 意 見 が 出
た。こ れ に 対 し 教 育 長 か ら 計 画 に 定 め ら れ た 評 価 手 順 に 従 い、図 書 館 運 営
委 員 会 の 協 議 を 踏 ま え 後 期 の 中 長 期 目 標 を 策 定 す る、と 答 弁 し て い る。

2 . 議 事

【 委 員 長 】

次 第 に 沿 っ て 進 め る。事 務 局 か ら 説 明 を。

★議題1 前回議事録の確認について

【図書館長】

資料1をお願いしたい。

事前送付しているが、7月に開催した委員会での議論の内容を要録として取りまとめたのが、今回の資料となる。今回の運営委員会で、確認、承認をいただければ、委員会終了後にホームページで公開したいと考えている。

【委員長】

本件について、質疑を行う。

何かあったら、ご意見、質問を。

(特になし。)

【委員長】

それではこれで確定とする。

続いて議題2に移る。事務局より説明を。

★議題2 図書館の運営について

- ・平成26年度図書館評価について

【図書館長】

議題2の26年度図書館評価に入る前に、一点修正をお願いしたい。

前回、委員会でご確認いただいたその他中長期目標平成26年度図書館評価について、一部記載が誤っているものがあったため、修正をお願いしたい。

追加提出資料をお願いしたい。

10の網掛け部分(取組結果)について、前回提出のものは庁内連携についての記載になっていたため、中長期目標との整合が取れていなかった。

そのため、整合が取れる記載とし、また、評価について民間事業者との連携が進まなかったことから、AからBへ変更した。

【委員長】

本件について、質疑を行う。

何かあったら、ご意見、質問を。

(特になし。)

それでは、次の案件をお願いする。

【図書館長】

続いて、資料 2 をお願いしたい。

こちらは、前回委員会での議論を踏まえ事務局でまとめた。修正案について審議いただき、確定させたい。

なお、前回提示したその他中長期目標については、委員会評価の対象とせず、各事業の実施について、事務局にて管理・状況の把握を行い、定期的に委員会に進捗を報告するものと整理した。

今回の審議内容はこれまで同様、ホームページ等で公開する。

主に前回委員会で意見のあったものについて説明する。

・次期システムの選定について

意見を踏まえ、仕様凍結について利用者ニーズを反映した仕様になるよう、よく検討する内容とした。

・積極的な広報や講座の実施について

前回説明のとおり、26 年度はホームページでの広報や講座を実施した。意見を踏まえ、成果の積極的な PR について記載した。

・みどりのこども館でのおはなし会について

報告書作成を記載すべきとの内容とした。

・その他の項目について

前回提示した内容を盛り込み、委員会の評価としてまとめた。

説明は以上である。

【委員長】

本件について、質疑を行う。

何かあったら、ご意見、質問を。

(特になし。)

【委員】

評価システム見直しについて、具体的な評価システムとは。

【図書館長】

今回評価を行っている方式を指しているが、平成 26 年度より委員会での議論を踏まえ、現在の評価手法への変更を行った。

【事務局】

計画に進捗管理として、一定の目標に対する進行管理を行っていく記載があり、図書館サービス評価と事業進捗評価に分けて評価する手法となっているが、昨年度委員会で評価の分かりづらさについて議論となったため、評価システムを変更し、明瞭性を向上させた。

【委員】

予約棚読み取り率の向上について、海外製プログラムのためうまく動かないとあるが、システムはNECと聞いていたと記憶しているが。

【図書館長】

システム全体はNEC製である。

【事務局】

返却機はTRI製で、それをNECが採用している。大元はフィンランド製で、一部ドイツ製のファームウェアなども入っている。不具合等について分析しているが、海外製のため調査にも限界があるようだ。本システムを導入した後に、国内第一号の製品が流通し始めている。

【委員】

貸出時には一斉に読み取りができるので素晴らしいと思うが、返却の時もそうならないのか。

【事務局】

予約の有無も含め、返却の際には処理をしなければならないので、難しい。

【委員】

視聴覚資料が上手く読み取れない不都合がある。電波が遮断されることに影響があるのか。並べ方でも工夫ができないか。

【事務局】

配置や傾け方で読取率を向上させる手法もあるが、スペースの問題等もあり、難しい。次期システムはアンテナを変更し、今よりは読み取りやすくなる。

【委員】

みどりのこども館おはなし会の報告書作成について、取組結果に追記すればよい話なのではないか。

【図書館長】

取組結果を訂正し、対応したい。

【委員】

学校連携について、実は学校がやらなければいけないと思っている。自分は学校システムとの連携に関わってきているが、必要性は分かるが現実的に無理なので、目標設定としてどうかと思う。

【図書館長】

後期目標設定の際、考慮したい。

【委員】

学校連携について、学校側で図書館の蔵書検索ができればよいのではないのか。

【図書館長】

現状でも検索はできる。

【委員】

一体化させる意味は。

【図書館長】

学校図書館同士の連携という考えがある。

【事務局】

それぞれの学校の本を全体で生かすことが効率的であるという点と、そのオブザーバーとしての公共図書館という位置づけである。公共図書館が学校図書館の足りない部分を補うというような。

これを実現するにはシステムを同じメーカーにすることや、更新時期が合わない等が課題である。現状では難しいので、次期システムでは今よりも学校側からのアプローチ改善を図っている。現状では学校からテーマを

投げかけられたものに対し、図書館が本をそろえているが、これはベテラン職員の知識や経験で保たれている現状がある。次期システムを活用して、誰でもができる機械的なシステムにしていく必要がある。全体を1つのシステムとするのは無理という結論である。

【委員】

単年度目標達成が無理とわかったが、横連携については検討するということか。

【事務局】

直接の所管である指導課で検討していく話であると思う。物流システムも総合的に考えなければならないので、図書館単独の目標というものにはならない。

【委員】

図書館から積極的に提案していくのではなく、学校側のアクションを待つという性質のものか。

単年度目標に対する評価として、何もしていないのではなく検討をしているので、評価がCとはならないのではないか。

【事務局】

学校システムに積極的にコミットするのは無理で、学校側も真に困っているわけではないというところもある。学校側から見やすいホームページの充実など、人的労力を軽減できるシステムにしていかないと難しい

【委員】

学校でもグループ学習をする際には一時期にたくさんの本が無いと難しいので、図書館サポーターが中心となり他の学校からも本を集めており、やはり人的な負担がある。図書館とのやり取りについても、学校側でリストを作成するなど、手間を省く工夫をしなければならない。

【事務局】

これまでの蓄積から、リスト化はある程度できている。それを使いやすくするしかけが必要と思う。

【委員】

図書館サポーター会議にも図書館職員が出席し、人と人とのつながりは

できている。

【委員長】

おおむね意見が出たようなので、事務局にまとめをお願いします。

スケジュールの関係から今回でまとめる必要があるので、委員会評価は、本日の議論を踏まえ事務局にて修正案を作成し、決定は委員長預かりとさせていただきます。よろしいか。

(異議なし)

それではさよう決定する。

それでは、次の案件を。

引き続き 3 番目「図書館基本計画実施計画評価（前期 5 年間）について」を議題とする。

事務局より説明を。

- ・ 図書館基本計画実施計画評価（前期 5 年間）について

【図書館長】

資料 3 をお願いしたい。

前回委員会で説明したとおり、計画実施計画に基づく中長期目標について、前期 5 年間（22～26 年度）の評価を行うものである。計画に定めるとおり、本評価に基づいて十分なサービス提供や事業進捗が図れていないものについて、総合的な判断を行ったうえで内容の見直しとして、今後策定される後期中長期目標に反映していく。

今後の流れとして、今回は中長期目標の事務局内部評価を提示し、次回 9 月末に開催する委員会で今回の議論に基づく委員会評価をまとめていただきたい。

なお、項目が多岐にわたるので、主に評価が B・C のものについて説明し、資料において利用者アンケート結果が出てくるので、参考資料を確認いただきたい。

< 図書館施設・機能の充実 >

- ・ サービス空白地域への拡大について、27 年度に芸能劇場へブックポスト設置を行っているが、その他地域については未定であること、26 年度中の設備設置ができなかったことから、評価を B とした。
- ・ 自動貸出機、返却機などの導入で利便性は向上し、一定の評価を得たが、需要の拡大が大きく、例えばフロアマネージャーの設置など、

マンパワーの振り分けが当初描いた状況どおりになっておらず、今後の検討が必要という状況から、評価をBとした。

< 地域の情報拠点としての情報の蓄積 >

- ・電子書籍サービスの導入について、現状での導入を見送ったため、評価をBとした。これは先進地の視察等を踏まえ、ハードの導入等、相当の利用環境の整備が必要なことや、そもそも電子書籍自体の数がまだ少ないという状況から、現時点での導入を行っていない、という状況である。

今後も動向を注視するとともに、経営的視点からコストなど考慮しながら、必要に応じて検討を行っていく。

< 市民や関係機関と連携したサービスの充実 >

- ・他機関との連携について成果もあるが、連携先がそれほど多くないことや、市議会での活用など、サービス拡大が図れなかった部分もあることから、今後システム更新に伴うホームページ機能の拡大なども活用しながら、PRを拡充することとし、評価はBとした。
- ・民間事業者や文化施設との連携について、民間事業者との連携は一定のイメージがあるが、実際の進捗がはかれなかったため、評価をBとした。

< 図書館の活用と情報収集の支援 >

- ・市民団体との連携・情報の蓄積について、イベント等に関連して資料の配布などの連携を行い、提供資料のリスト化も行っているが、目標に規定する活動記録の蓄積については図書館が主管として行っている対象ではないため、評価をBとした。

ちなみに、活動記録の蓄積は市民活動推進課において実施している。

< 市民の学びと課題解決の支援 >

- ・レファレンスサービスの充実について、アンケート結果からレファレンスサービス自体の認知が進んでいないと思われるため、今後、更にわかりやすい広報に努めることとし、評価をBとした。

< 利用対象者別の図書館サービスの充実 >

- ・来館困難者に対するサービス拡充について、障害者へのサービスは継続的に行い、一定のサービス提供が出来ているが、外国人へのサー

ビス提供について、外国語図書や広報でサービス水準向上を図っているものの、改善の余地があると考えるため、今後の検討課題ととらえ、評価をBとした。

説明は以上である。

【委員長】

本件について、質疑を行う。

何かあったら、ご意見、質問を。

【委員長】

市民団体活動記録の蓄積について、図書館の対応ではないという趣旨の記載だが、違和感がある。他の部署で実施しているのなら良いのでは。

【事務局】

中長期目標の設定時のすみ分けによるものであり、図書館一部署の対応としてはこのような整理と考えたものである。後期中長期目標設定の際には記載方法を検討し、また委員会でご審議いただきたい。

【委員長】

記載について工夫頂きたい。

【委員】

市民活動推進課が実施することが効率的ということか。

【図書館長】

プレイスは複合施設で、市民活動部門がある。図書部門は市民活動の棚の設置を行っているが、実際の活動にかかわっているのは市民活動部門であるため、記録の蓄積は部門が異なる。

【委員】

市民活動推進課の所管が望ましかった、適切だったという記載が良いのではないか。

【図書館長】

記載方法を検討する。

【委員】

レファレンスサービスについて、自身もこの委員会で知った。一般にはやはりなじみが無いので、どうやって認知度を上げたらよいか。学校図書館や図書館の広報で伝えてかなければならないか。

【委員】

アンケートを春と秋2回行うなど、回数を増やすべきである。

アンケートはPR効果が高く、具体的な説明を併記し質問することで、それまで知らなくても、一連の流れで周知が図れる。

来館者アンケートのPR効果は大きい。大学などだと新生が入ってくるので、PRにアンケートを用いている。公共図書館と大学図書館は性質が異なるが、しっかりPRをすることが大事である。

例としてレファレンスについても西洋では一般的で認知が高いが、日本では浸透していないので、アンケートをPRに用いるべきである。

アンケートの実施は後期の目標にも入るべきである。

【委員】

レファレンスの案内に調査支援（相談）、読書相談など、キーワードを入れて標記を工夫すると良い。

【委員】

返却用ブックポストについて、プレイスでは建物北側に後から設置（26年度中）されたので、実績とすべきである。

【委員長】

大体意見が出たようなので、事務局にまとめを願う。次回の委員会で再度確認し、確定させることとする。

議事はこれで終了したので、その他について。

事務局から何かあるか。

3. その他

【事務局】

次回の日程についてご案内したい。

今回は今回議論いただいた前期内部評価について、ご意見を踏まえ委員

会評価案を提示するので、ご確認いただきたい。

日程については前回委員会で確定した 28 日月曜日に開催する。会場は同じである。

【委員長】

それでは全体を通じて何か意見・質問等はあるか。

【事務局】

本日、机上に 26 年度の年次報告書（武蔵野市の図書館）を配布している。

ご確認を頂きたい。

4. 閉会

【委員長】

以上をもって、第 6 期図書館運営委員会第 9 回会議を閉会する。